



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日 平成29年6月1日
発行者 校長 末永 寿宣

No. 316 6月号

昭和49年度第53回卒業生寄贈「ひょうたん池」の再生

～legacy（レガシー＝遺産）として後世に受け継ぐために～

校長 末永 寿宣

尾久西小学校は、次年度、創立95周年の節目を迎えます。メモリアル事業として、「ひょうたん池」の再生に向け、少しずつ取り組んでまいります。保護者の方の中で、本校の卒業生はその存在をご存知かもしれません。実は、保健室の前の花壇の地中にひょうたん型の池が埋もれていたのです。

昨年度3月末に、4年生が校長室へインタビューに来ました。学校の歴史を調べる学習の一環です。様々な質問の中で、「昔、ひょうたん池があったそうですが、今はどこにありますか」というものでした。この質問が発端となって、昔あったであろう「ひょうたん池」の捜索がはじまりました。5・6年生で構成する環境委員会が、用務主事さんの協力を得て、ついに見つけました。草をとり、積もった土を退けました。水をはり、魚が泳ぐ昔の池がよみがえるまで、コツコツ整備してまいります。

過去 昭和49年度第53回卒業生からの贈り物

池の底から四角柱の立派な記念碑が発掘されました。そこには「寄贈昭和四十九年度 第五十三回卒業生一同」の文字が刻まれていました。この記念碑から想像するに、この年度の卒業生が寄付金を募り、ひょうたん池を専門業者に発注し設置したと考えられます。こころあたりの卒業生の方、ご一報ください。100周年までにもう一度、当時のひょうたん池を復活させたいと思います。

現在 「ひょうたん池」の原形が出現

記念碑を取り出した後のひょうたん池は、深さが結構あります。オーバーフロー用のパイプが中央から伸びていて、当時の工夫の跡が見られます。奥には、溶岩で形とられた給水部分が見られますが、どこから水がひょうたん池に注がれていたのか、引き続き調査が必要です。このひょうたん池で魚が泳ぐ日は、まだしばらくかかりそうです。

未来 学校と地域が一体となった環境教育活動

昨年度は、「尾久西小自然園」のリニューアルに取り組んでまいりました（尾久西だよりNo.309 平成28年11月号）。今後は、創立100周年に向けて、学校と地域が一体となり、この「ひょうたん池」を本校の遺産（レガシー）として、後世に残してまいります。

尾久西小学校の子供一人一人が、身近にある「ひょうたん池」を活用し、学校と地域、卒業生が一体となり、環境学習が存分にできるように、整備してまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



▲草をとり、積もった土を掘りおこす環境委員会のメンバー



▲泥でつまった排水溝を掃除する用務主事さん



▲池の底に埋もれていた記念碑



▲深さ約50cm、幅1m、長さ3mの見事なひょうたん型の池が姿を現しました。